

豊岡市地域包括支援センターの設置状況について

【2023年5月1日現在】

(単位：人)

名 称	人 口 (第1号被保険者数) 高齢化率	要支援・ 要介護 認定者数	配置職員	設置形態
豊岡地域包括支援センター 対象区域面積 133.40 km ²	39,269 (12,149) 30.9% 港地区除く	2,178	看護師 2 社会福祉士 2 主任介護支援専門員 1 主任介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(非常勤) 2 保健師 1 事務【統括】 1 事務(嘱託) 1	委託 豊岡市社会福祉協議会
			小 計 12	
城崎・竹野地域包括支援センター 対象区域面積 162.93 km ²	9,547 (4,029) 42.2% 港地区含む	805	看護師 1 看護師(嘱託) 1 社会福祉士 1	
城崎・竹野地域包括支援センター 竹野分室 再掲 対象区域面積 102.79 km ²	再掲 4,077 (1,792) 44.0%	再掲 366	社会福祉士 1 主任介護支援専門員 1	
			小 計 5	
日高地域包括支援センター 対象区域面積 150.24 km ²	15,655 (5,505) 35.2%	1,080	看護師 1 看護師(嘱託) 1 社会福祉士 3 主任介護支援専門員 1 介護支援専門員(嘱託) 1 介護支援専門員(非常勤) 1 事務(嘱託) 1	
			小 計 9	
出石・但東地域包括支援センター 対象区域面積 251.09 km ²	12,674 (4,972) 39.2%	954	保健師 1 社会福祉士 1 主任介護支援専門員 1	
出石・但東地域包括支援センター 但東分室 再掲 対象区域面積 161.96 km ²	再掲 3,683 (1,693) 46.0%	再掲 373	社会福祉士 2 看護師(嘱託) 1	
			小 計 6	
豊岡市合計	77,145 (26,655) 34.6%	5,017	合 計 32	

2022年度 豊岡市地域包括支援センター事業報告

2022年度地域包括支援センター活動目標『豊岡市老人福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本理念「みんなで支え合い 笑顔あふれる まちづくり」の実現に向けて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう地域課題を把握し、市や地域住民、関係機関との連携・協働により、地域共生社会（「高齢」「障害」といった縦割り型福祉ではなく、生活上の困りごとを抱えた人を地域で幅広く支えることができるような包括的支援）を見据えた地域包括ケアシステム構築の推進に向け取り組む』のもとに、以下の活動を行った。

（人数等実績数値は、各年度ともに3月末現在）

1 総合相談支援業務

方針(1) 高齢者のさまざまな相談を受け止め、心身の状況や家庭環境等の適切な実態把握を行い、緊急性を判断し優先順位をつけ対応する。

ア 相談対応の中で、必要に応じ適切なサービスや社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結を意識し対応する。

【活動実績】

すべての業務の入り口となる総合相談では、高齢者のさまざまな相談を受け止め、訪問や聞き取りの中でアセスメントを幅広く丁寧に行なった。相談票に緊急レベルを記入し優先順位をつけて終結を意識して取り組んだ。また、相談の中で専門分野の対応が必要な事例については、包括内で十分協議し専門性を生かすよう複数で対応を行ない、適切なサービスや社会資源につなぐことができるよう取り組んだ。

【事例1】

・70歳代 男性 独居（豊岡圏域）

『重度の慢性心不全があり、入退院を繰り返しているケース（軽度知的障害疑い）』

独身で身寄りはない。以前は亡従兄弟の妻の関わりがあり地域包括への相談につながったが、体調不良を理由に関わりは拒否されている。服薬や生活上の制限を守ることが出来ず、入退院を繰り返しており、入退院時の手続きや緊急連絡先がないことで、病院と地域包括が連携しての対応を繰り返してきていた。退院後の支援のため、本人が希望する居宅介護支援事業所に担当を依頼するが、緊急連絡先がないケースは受けられないと断られたり、ヘルパーや短期入所についても同様の理由で断られる事業所があった。現在は、ケアマネジャーがつき市長申立てにより成年後見制度も利用できるようになったが、体調急変などの緊急時には、地域包括職員も連携して対応を続けている。

このように身寄りのない方の支援については、身元引受人や緊急連絡先がないため、介護サービスを受けにくい、転居先が見つからない等支援に支障をきたすケースが増加している。

【課題】

総合相談で受ける相談内容が年々複雑化・困難化してきている。特に身寄りがない方や複合多問題世帯の相談については、課題を整理し多機関等との協議を重ねて支援を継続しても相談の終結に至らないケースが増加し、支援にはかなりの時間を要している。また、相談者の希望される多様なサービスや社会資源が不足しており、支援をつなぐことが困難になってきている。

年々相談件数は増加し、複雑化・困難化してきている上に、介護予防ケアマネジメントと合わせると地域包括支援センターの業務全体の8割以上を占めていることで、その他の業務を圧迫しており、業務のバランスが崩れている。

※複合多問題世帯…8050問題・9060問題等、高齢の親とひきこもりの子の世帯。高齢者と障がいのある家族のみの世帯。認知症や障害等で、認知判断力が低下している、または判断できる者がいない世帯。
関わる家族・親族がいない世帯。地域から孤立している世帯等の総称。

方針(2) 支援を必要とする高齢者の把握及び継続的な支援を行うため、地域における様々な関係者とのネットワーク構築を行う。

ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター等と連携を図り、支援の必要な人が地域の中で支えられているネットワークの確認や新たなネットワークづくりに取り組む。

【活動実績】

各地区の福祉委員連絡会やマップ作りに参加したり、定期的に圏域ミーティングに参加したりすることで、地域の中で対応が必要なケース等の共有の機会を持つことができた。

日高地域では、移動販売業者との情報共有の機会を持ち、連携していくための体制づくりのきっかけとなった。また、出石・但東地域では、見守り個配サービスがモデル実施され生活支援コーディネーター等と連携して新たな見守りの形について取り組むことができ、ネットワークづくりの幅が広がった。

【事例2】

・70歳代 女性 息子との二人暮らし（但東圏域）

『日課のウォーキングが、認知症になり妄想による独り歩きに変わっていったケース』

小学校区を中心に但東町内の広い範囲で一人歩きをしており、道から落下して骨折をしたり、妄想で現在は存在しない建物を探しに行こうとしたり、山道に迷い込んでしまわないかという心配があった。地区コミュニティや集いの場の職員や地域住民が、それぞれ気にかけて見守りを行ってくれていたことが分かったが、家族は地域の方々の支えに気づいてはいなかった。

そこで、家族と見守りをしてきている地区コミュニティや集いの場職員、民生委員などの地域住民、ケアマネジャー、駐在所警察官、地域包括職員等が集まる機会を設けた。その中で、

本人が住民の方に話していた内容や、地域住民からどのように声をかけてもらっていたのかを共有できたり、危険な場面を見つけた方が自宅まで送り届けてくれていた事実などを把握することができた。家族が何に困っているのか、どのような対応をしているのかを地域の方と情報交換し、連絡先の交換も行えたことで、家族と地域のさまざまな人達、関係機関が連携した見守りネットワークができ、本人が地域で自分らしく暮らしていくための見守りが続いている。

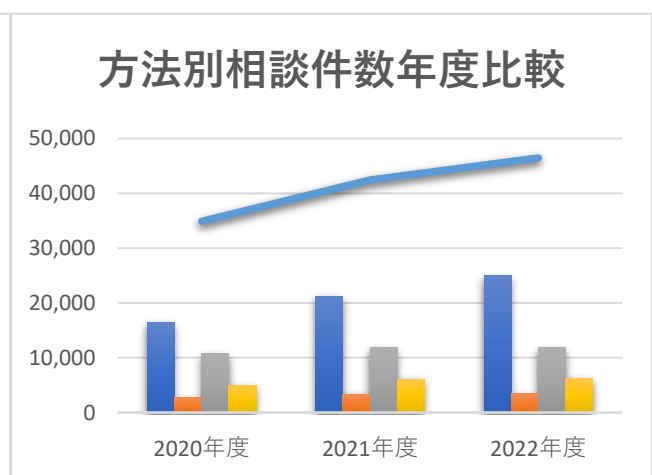
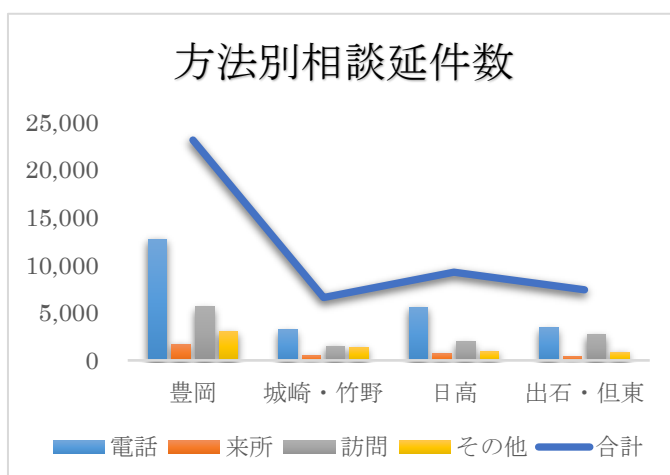
【課題】

地域との関わりは、支所や生活支援コーディネーターが中心になることが多く、二次的な関わりになりがちである。介護予防ケアマネジメントが業務を大きく圧迫してきていることで、支援を必要としている高齢者に対し、積極的に地域に出向いて予防的なかかわりや早期介入ができにくい状況となっている。また、コロナ禍が長引いていることも一つの要因である。

【方法別相談延件数】

(単位：件)

	電話	来所	訪問	その他	合計
豊岡	12,730	1,715	5,658	3,063	23,166
城崎・竹野	3,213	534	1,526	1,380	6,653
日高	5,583	748	1,987	950	9,268
出石・但東	3,415	418	2,705	882	7,420
2022年度	24,941	3,415	11,876	6,275	46,507
2021年度	21,246	3,321	11,782	6,116	42,465
2020年度	16,462	2,711	10,754	4,970	34,897

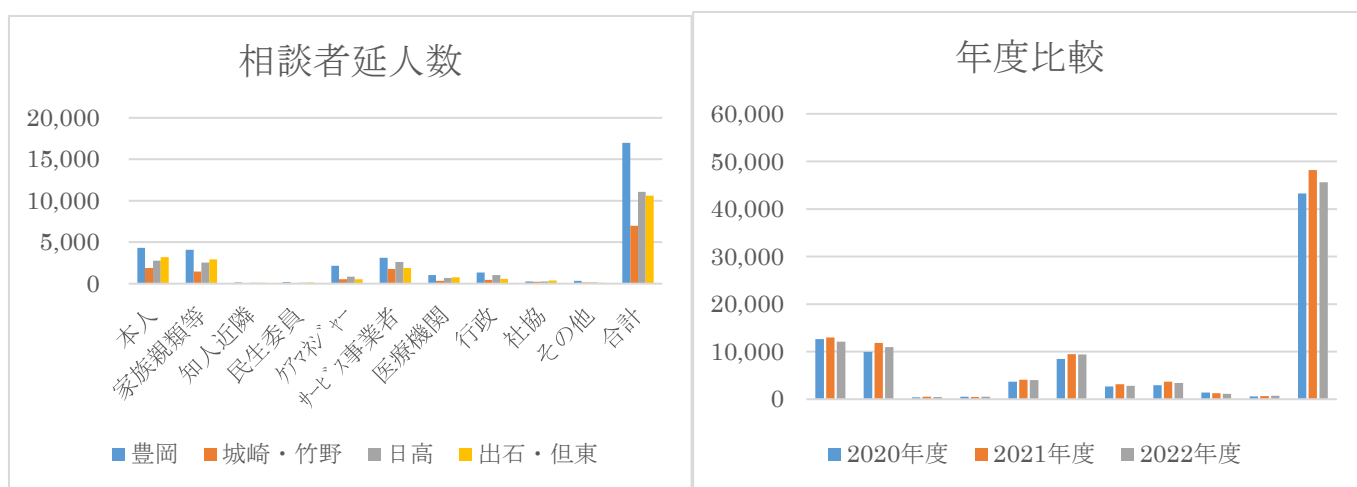


◆コロナ禍が続いている影響で電話相談が最も多く、次いで訪問となっている。全相談件数の半数は豊岡圏域となっている。

【相談者延人数】

(単位：人)

	本人	家族 親類等	知人 近隣	民生 委員	ケアマネ ジャー	サービス 事業者	医療 機関	行政	社協	その他	合計
豊岡	4,319	4,086	163	167	2,142	3,124	1,017	1,341	266	347	16,972
城崎・竹野	1,880	1,452	85	87	545	1,761	352	474	234	131	7,001
日高	2,757	2,527	101	99	828	2,630	671	1,039	280	134	11,066
出石・但東	3,180	2,923	95	156	539	1,893	747	589	378	120	10,620
2022年度	12,136	10,988	444	509	4,054	9,408	2,787	3,443	1,158	732	45,659
2021年度	12,994	11,831	538	456	4,129	9,484	3,139	3,674	1,291	669	48,205
2020年度	12,616	9,979	422	544	3,677	8,453	2,661	2,958	1,380	585	43,275

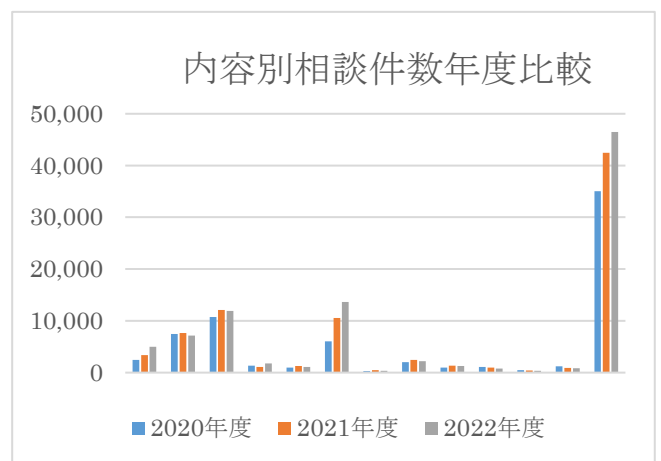
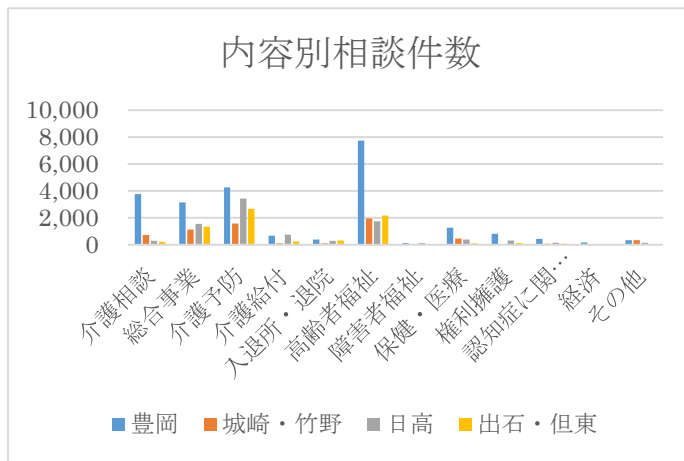


◆その他は、後見人・弁護士・金融機関・元民生委員・大家等となっている。

【内容別相談延件数】

(単位：件)

	介護 相談	総合 事業	介護 予防	介護 給付	入退所 ・退院	高齢者 福祉	障害者 福祉	保健 医療	権利 擁護	認知症 に関する事	経済	その他	合計
豊岡	3,775	3,154	4,259	668	384	7,748	137	1,270	812	432	188	339	23,166
城崎・竹野	719	1,133	1,582	104	98	1,965	30	469	26	130	64	333	6,653
日高	289	1,558	3,432	750	290	1,738	122	398	327	156	66	142	9,268
出石・但東	228	1,336	2,665	252	322	2,166	49	97	121	93	44	47	7,420
2022年度	5,011	7,181	11,938	1,774	1,094	13,617	338	2,234	1,286	811	362	861	46,507
2021年度	3,354	7,639	12,069	1,107	1,247	10,526	479	2,475	1,352	939	385	893	42,465
2020年度	2,471	7,462	10,716	1,313	993	6,063	294	1,993	989	1,093	452	1,187	35,026

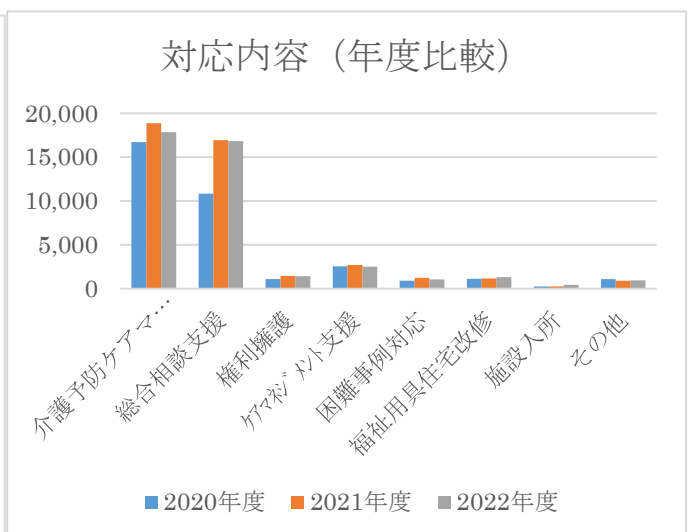
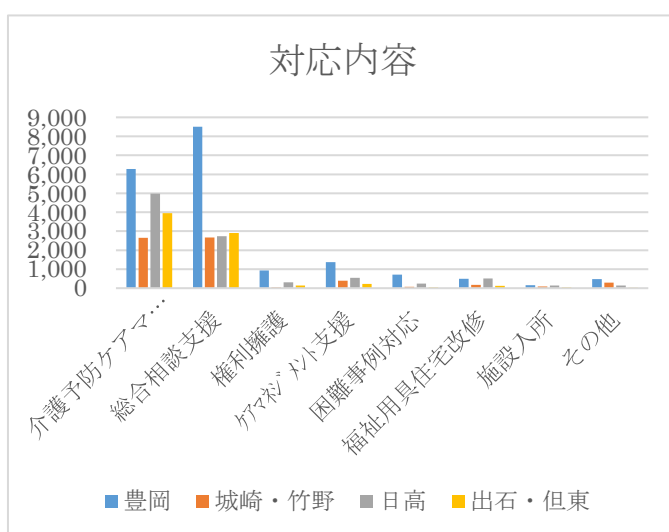


◆高齢者福祉の相談が増加している要因は、介護保険サービスの対象にはならないが、高齢者が参加できる多様な集いの場や生活の困りごとなどの相談や、運転免許更新の相談の増加があげられる。

【対応内容】

(単位：件)

	介護予防 ケアマネジメント	総合相談 支援	権利擁護	ケアマネジメント 支援	困難事例 対応	福祉用具 住宅改修	施設入所	その他	合計
豊岡	6,276	8,509	925	1,371	712	488	162	482	18,925
城崎・竹野	2,651	2,674	33	391	70	172	87	293	6,371
日高	4,988	2,729	314	542	235	514	140	138	9,600
出石・但東	3,946	2,914	138	231	31	125	38	28	7,451
2022年度	17,861	16,826	1,410	2,535	1,048	1,299	427	941	42,347
2021年度	18,865	16,943	1,461	2,689	1,228	1,157	264	897	43,504
2020年度	16,729	10,847	1,111	2,556	926	1,114	271	1,105	34,659



◆介護予防ケアマネジメントと総合相談支援業務が、全体の8割以上を占めている。

【広報活動件数】

	対象者	実施件数（件）	延参加人数（人）
豊岡	住民、学生、企業等	20	648
城崎・竹野	民生児童委員、住民、学生等	8	140
日高	民生児童委員、住民、学生等	5	170
出石・但東	民生児童委員、住民等	13	293
合計		46	1,251

2 権利擁護業務

方針(1) 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿い、関係機関と協同して適切な対応を行う。
ア 事例検討を行い、適切な対応ができるよう力をつける。

【活動実績】

虐待対応事例の検討を行い、対応に苦慮した事例の問題点や課題、対応策を共有した。圏域により対応件数に差があることで生まれる力量の差については、事例検討を通じて体験を補い、担当職員全体の対応力向上につながった。事例を共有することで、多職種との連携や仕組みの理解を深めることもできた。

【事例3】

- ・70歳代 男性（要支援1）と70歳代 女性（要介護1）の夫婦二人暮らし（日高圏域）
『夫がアルコールを多飲すると、妻に対し虐待が繰り返されているケース』

生活保護受給世帯で、歩行状態が悪化し動作に時間がかかり、認知症状が進んできた妻を夫が介護している。介護負担の軽減目的で介護保険サービス利用を勧めるが、夫の同意が得られず利用に至らない。特に施設に対するイメージが悪く「入所させることは可哀そう。わしがみてやらんなん。」と言う。夫がアルコールを飲みすぎると感情のコントロールができなくなり、妻への暴言や暴力に発展するが、飲酒量が多くなるタイミングがつかめず緊急対応が必要となっている。その都度、緊急的な分離の支援としてショートステイ利用を調整することに苦慮している。

【課題】

虐待対応はマニュアルやルールに則って対応しているが、夜間等に対応が及ぶことがあり分離対応に苦慮することがある。地域包括支援センターでの対応が困難な場合にも、被虐待者・養護者等の安全が確保されるように、市と連携し対応策について検討していく必要がある。

方針(2) 必要な人が成年後見制度の利用ができるよう支援する。

- ア 必要な人に成年後見制度の利用がつながるように事例検討などを通じてスクリーニング力を高める。

【活動実績】

成年後見制度に繋いだ事例を共有することで、対応の振り返りとなり新たな視点への気づき生まれ、弁護士相談につながり適切な対応が行えた。事例共有が追体験となりスクリーニング力を高めることもできた。

【課題】

認知症等により判断力が低下した方の中でも本人申立や親族申立が難しい方には、市長による申立が行われるが、成年後見申立手続きには準備期間を含めて時間がかかり、場合によっては半年以上かかることもある。その間、必要な支援が適切に受けられない状態が続いてしまうため、後見人等が決定するまでの支援を誰がどのように行っていくのかが大きな課題となっている。

※スクリーニング…ふるいにかけて条件に合うものを選び出す。優先順位や緊急性の判断にも用いる。

方針(3) 関係機関と連携し、高齢者の消費者被害の防止に努める。

- ア 但馬消費生活センターや豊岡市消費生活センターと連携し、意見交換・情報交換を行い、高齢者の消費者被害の防止に努める。

【活動実績】

豊岡市消費生活センターの担当者と情報交換の場を持ち、リスクの高い消費者被害の実態や対応方法などを共有した。担当者と顔を合わせることでより連携できる関係作りができ、消費者被害の情報を知ることによって、地域住民や関係者への情報発信につながった。

【課題】

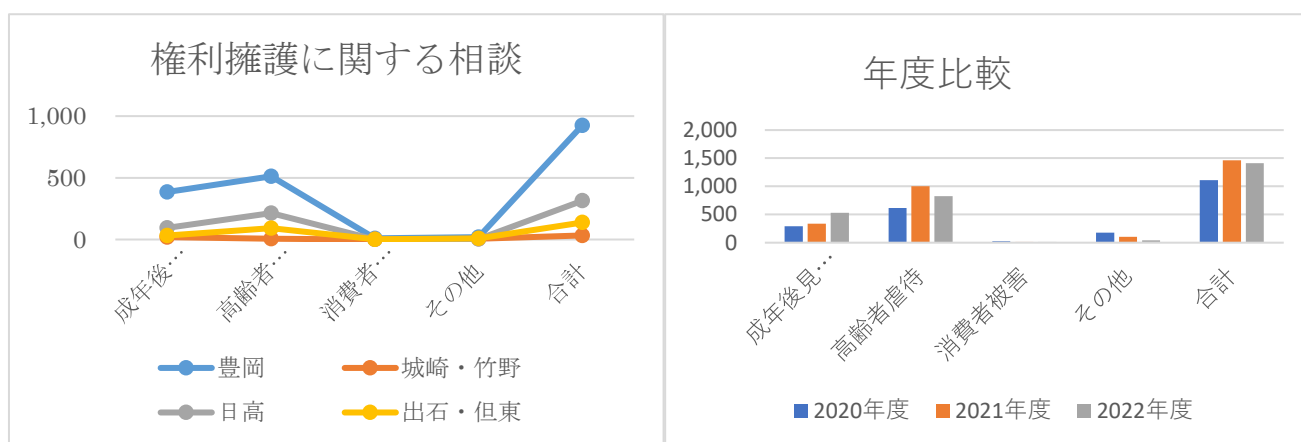
消費トラブル等の相談を通じて随時情報交換を行っているが、その他、年一回の情報交換では情報を得る頻度が限られる。今後は、警察や消費生活センターが発信している情報を定期的に確認し、地域住民や関係者への情報発信につなげ、消費者被害の防止に取り組んでいく必要がある。

【権利擁護に関する相談】

(単位：件)

	成年後見制度	高齢者虐待	消費者被害	その他	合計
豊岡	384	512	10	19	925
城崎・竹野	19	7	0	7	33
日高	94	215	0	5	314
出石・但東	33	93	2	10	138
2022年度	530	827	12	41	1,410
2021年度	338	1,005	13	105	1,461
2020年度	291	613	27	180	1,111

◆相談件数の約7割が豊岡地域で、豊岡地域の相談件数は前年度から約170件増加している。



【虐待通報件数等】

(単位：件)

	前年度からの継続	通報	内虐待認定
2020年度	15	31	19
2021年度	14	42	22
2022年度	15	30	6

【虐待対応件数】

(単位：件)

	分離			分離せず		成年後見 制度申立	終結	対応継続
	特養へ措置	養護へ措置	入院・施設 等への入所	在宅サービス 導入調整等	その他			
豊岡	0	0	1	2	6	1	4	5
城崎・竹野	0	0	1	2	1	0	2	2
日高	0	0	2	3	0	0	4	1
出石・但東	1	0	0	1	1	0	2	1
合計	1	0	4	8	8	1	12	9

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- 方針(1) 介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。
- ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。
 - イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。

【活動実績】

今年度は、介護支援専門員連絡会を参集型とオンラインを併用して開催することができた。コロナの感染拡大時には、臨機応変にオンラインに切り替えて実施した。介護支援専門員連絡会の中で、生活支援コーディネーターの役割や活動を紹介し、買い物支援や移動交通などの地域課題について、様々な取り組みや活動が進んでいることを介護支援専門員に知ってもらうことができた。

また、公立豊岡病院看護部などと在宅支援者の連携協議会（看護師等とつながる会）に参加し、情報共有することで入退院時の連携をスムーズに行い、業務の効率化を図るため入院時情報提供書様式を但馬管内で統一化をするように検討を行っている。

- 方針(2) 介護支援専門員の質の向上を図る。
- ア 高齢者がかかりやすい疾患についての理解を深められるように研修の機会を持つ
 - イ 介護支援専門員から地域包括支援センターに受けた相談内容を整理し、効果的に相談対応が行えるようになる。

【活動実績】

介護支援専門員連絡会の中で、豊岡市作成の『認知症とともに』のDVD鑑賞を行い、当事者に寄り添いながら支援を行うという実践に向けた研修の機会になった。

また、『発達障害をもつ高齢者・家族への支援について』というテーマで、ひょうご発達障害者支援センター公認心理士を講師に迎え研修会を開催した。発達障害がある方の個々の特性を理解し、関わりのヒントを得る機会となった。

介護支援専門員から受けた報告を含め相談内容について整理して記録に残し、経過を振り返ることで介護支援専門員の相談に対し効果的に対応できた。

オンラインで開催した研修では、終了後にアンケートを実施しなかったため介護支援専門員からの反応が把握できていなかったが、年度末にアンケートを実施して、介護支援専門員からも好評価が得られている。

- 方針(3) 介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるように支援する。
- ア 業務継続に向けた取り組みの強化・感染症対策の強化についての研修の機会を持ち、必要な知識を身につけられるように支援する。

【活動実績】

『BCP（業務継続計画）に向けて ～介護支援専門員が平常時から準備・検討すること～』というテーマで有識者を講師に迎え研修会を開催し、介護支援専門員に求められる役割について意見交換をすることができた。コロナ禍で直面している感染症への対応の経験を活かし災害時についても同様に、事業所として備えることの大切さや実践していく行動力を学ぶことができた。

【課題】

研修により、BCP（業務継続計画）について理解を深めることができたが、居宅介護支援事業所の計画作成は、多くの事業所が検討途中である。2024年3月31日までの経過措置期間内に必要な措置が講じられるように支援をしていく必要がある。

【介護支援専門員支援回数】

（単位：回）

	ケース 検討会議	同行訪問	個別相談 情報提供	サービス 担当者会議	合計
豊岡	17	180	1,246	24	1,467
城崎・竹野	5	88	350	17	460
日高	9	69	472	17	567
出石・但東	7	74	141	25	247
合計	38	411	2,209	83	2,741

◆豊岡圏域が多い理由は、居宅介護支援事業所も介護支援専門員数も他圏域合計の倍以上であることが主な要因である。

【介護支援専門員ネットワーク連絡会開催実績】

	回数（回）	延参加人数（人）
豊岡	0	0
城崎・竹野	0	0
日高	0	0
出石・但東	1	12
合計	1	12

◆コロナ禍で開催できていない圏域が多い中、出石地域では出石医療センターと介護支援専門員が合同で研修会を実施した。

4 地域ケア会議の推進

方針(1) 個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。

- ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、課題解決に向けて検討する。

【活動実績】

個別ケア会議は、困難事例の検討が主で、課題が多岐にわたり解決が困難なケースが多い。タイミングを逃さずに開催し、課題の整理や方向性の統一を図った。また、支援者それぞれがお互いの役割を認識することで、早急な対応や連携により解決につながるケースもあった。

また、関わりが難しいケースへの対応については、繰り返し会議を重ねて支援方針を統一することで課題の解決を図ることができた。

【課題】

身寄りがないケースや複合多問題世帯で課題が多岐にわたるケースの場合には、課題を丁寧にも解いていく必要があり、解決に向かうまでには息の長い支援が必要になる。現在ある制度や社会資源だけでは解決に結びつかないことが大きな課題であり、役割分担をしても中心に関わり続ける地域包括職員の負担は大きい。

方針(2) 自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、個別の事例検討から地域課題を抽出し整理する。

- ア オンライン会議も活用しながら自立支援型ケア会議を開催し、多職種で地域課題を共有し整理する。

【活動実績】

コロナの感染拡大時には、オンラインを活用して会議を開催した。今年度も、地域課題の抽出・整理を行い方向性の検討を行った。

出石地域ケア会議では、シルバーカーや杖を利用する高齢者から、「バスに乗って外出したいが、一人ではシルバーカーや荷物を持って乗降することができない。」「少し手助けしてくれたら乗れるのに。」という声を共有した。その課題から、車いすとシルバーカーを使用した路線バスの乗り方やノンステップバスの構造を学ぶ研修会が開催された。しかし、口頭で高齢者等に上手く伝えることが難しいという課題から、視覚化しわかりやすく伝えるバスの乗り方動画作成につながるなど、地域ケア会議での課題の共有から新しい取り組みも行われた。

※路線バス乗降方法動画…全但バス（株）、豊岡市、豊岡市社会福祉協議会で動画を制作。

全但バス（株）・豊岡市 HP、豊岡市社会福祉協議会公式 YouTube チャンネルにて公開。

【個別ケア会議開催実績】

	回数（回）	検討件数（件）
豊岡	9	3
城崎・竹野	2	2
日高	12	10
出石・但東	5	5
合計	28	20

【自立支援型地域ケア会議開催実績】

	回数（回）	検討件数（件）
豊岡	12	20
城崎・竹野	12	18
日高	12	15
出石・但東	12	16
合計	48	69

5 介護予防ケアマネジメント業務

方針(1) 自立した生活のための能力維持と向上を図り在宅生活を支える。

ア 介護予防について広報紙による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動をすすめる。

イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス・活動等、住民主体の支援などの活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。

ウ 高齢者が、自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

【活動実績】

介護予防について、コロナフレイルによる転倒などの相談が多くあったことから、社協広報誌 NIC011月号に、よくある事例をもとに相談の流れや、元気塾・地域の玄さん体操など介護予防についてわかりやすくイラストを用いて掲載した。又個別相談の中から、公的サービスや運動から元気塾や地域のサロンに繋いだ。

【課題】

介護予防の必要な方が、事業をイメージしにくいことで参加につながりにくい。実際の教室や体操の様子活動の場などのPR動画を気軽に見てもらえるような工夫が必要である。又未だコロナ禍が継続しており集まりの場に参加することに不安を感じる方も多い。

高齢者の自立支援を目指して、包括支援センター職員が介護予防等サービス計画を作成し、公的サービス等介護予防の場につなげていくが、月平均1,400件以上となるため、4割強を居宅介護支援事業所に委託している。しかし、居宅介護支援事業所の閉鎖や合併、介護支援専門員数の減少により、委託事業者から地域包括支援センターに戻ってくるケースが増えてきている。

【認定区分別介護予防等サービス計画作成件数】

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業 対象者	239	220	225	206	184	194	203	208	178	179	204	183	2,423
要支援1	821	821	840	844	852	836	842	845	832	824	815	824	9,996
要支援2	364	368	368	378	384	379	393	392	387	391	384	381	4,569
合計	1,424	1,409	1,433	1,428	1,420	1,409	1,438	1,445	1,397	1,394	1,403	1,388	16,988
豊岡	608	607	623	624	631	628	632	642	639	653	631	627	7,545
城崎・ 竹野	243	240	230	231	235	234	238	237	229	207	223	230	2,777
日高	306	300	297	300	290	286	289	286	275	278	277	276	3,460
出石・ 但東	267	262	283	273	264	261	279	280	254	256	272	255	3,206
合計	1,424	1,409	1,433	1,428	1,420	1,409	1,438	1,445	1,397	1,394	1,403	1,388	16,988

◇介護予防等サービス計画作成件数内訳

(単位：件)

	2020年度	2021年度	2022年度
指定介護予防支援事業者・ 地域包括支援センター作成分	9,628	9,582	9,543
委託事業者作成分	6,909	7,363	7,445
合計	16,537	16,945	16,988

6 生活支援体制整備の推進

方針(1) 生活支援コーディネーター等と連携し、地域における課題解決のネットワークの構築に努める。

ア 高齢者やその家族を支える地域の多様な社会資源を把握する。

イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場に参加し、地域における課題解決に向けた取り組みを進める。

【活動実績】

コミュニティのカフェに参加し、スタッフとの顔合わせや地域の情報共有を行ったり、個別のケースから、友人や知り合い・近隣住民や事業所の立場で高齢者等を支えるインフォーマルな資源の把握を行った。

但東地域では、ある企業との情報交換から、内職をしている高齢者への配達・回収を通して見守りをしていることがわかり、異変に気づいた時に連携できる関係作りが行えた。また、コミュニティの部会に参加し、但東地域でヘルパーサービスが新規利用できなくなっているという現状を伝え、地域での支え合い活動をさらに推進していく必要性について共有した。

竹野地域では、3地区のコミュニティのカフェ開催に合わせて、福祉相談窓口を開催している。元々は竹野支所で家族介護者教室を開いていたが、参加者が殆どなかったため地域に出ていこうと始めた。3カ月ほどは相談窓口を支所と地域包括職員が座っていたが相談はなかった。そこで、福祉用具貸与事業所へ依頼し福祉用具の展示を始めたことで、徐々に、杖や靴などの購入や電動カートのレンタル相談や、相談から介護保険申請に繋がるなど相談窓口としての成果が出てきている。

【課題】

地域と課題を共有しても、昔から地域との関わりを持っていない人や他人が介入することを拒否する人は、課題解決に向けての取り組みがスムーズに進まないのが現状である。地域での見守りの継続や、情報共有を積み重ねながら高齢者等との関係性を構築し、介入のタイミングをどのように見極めていくのかが難しい。

※生活支援体制整備事業…市町村の日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」と「協議体」を配置して、地域住民の「互助」による助け合い活動を推進することで、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進める。

7 認知症施策の推進

方針(1) 認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。

- ア 小中学生や高校生を含む幅広い世代や企業等を対象に認知症サポーター養成講座や認知症講座を開催し、対象者にわかりやすく伝え理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。

【活動実績】

地域住民や小・中・高校での認知症サポーター養成講座を開催した。児童生徒から、『認知症の人が一番苦しんで困っておられることを知った。やさしく声をかけたいと思う。』などの学びにつながったとの感想が聞かれた。また、地域住民からは、『誰でもなる病気で、自分自身が今後なる可能性があるのでこの先が心配。』など、予防の大切さや認知症をより一層身近に感じていただけた。

【課題】

地域住民向けの開催では、『簡単だった。もっと詳しく聞きたい。』『難しかった。』と正反対の感想があり、個々の認知症の理解のレベルに合わせた講座の難しさを感じた。

また、認知症の方が、スーパーに置いてあった忘れ物の財布を持ち去ったり、他人の自転車に鍵を入れて帰ろうとする等トラブルになっていることがある。誰もが住みやすい地域になるように、認知症の正しい理解の積極的で多様な普及啓発が必要である。

方針(2) 認知症の早期発見・早期対応に努める。

- ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を、居宅介護支援事業所や民生委員等に行い早期発見につなげる。
- イ 「認知症相談センター」として、早期に適切な医療・介護・社会資源につなげる相談内容に応じて認知症地域推進委員や認知症初期集中支援チームにつなぎ、連携して早期対応・早期診断に向けた支援を行う。

【活動実績】

介護支援専門員や民生委員には、定例会議や認知症のケースの相談時に、認知症初期集中支援推進事業の周知を行った。各圏域とも、認知症初期集中支援事業にケースをつなぎ、受診やサービスにつながり対応が継続できている。

【事例4】

- ・ 80歳代 女性 夫と長女との三人暮らし（豊岡圏域）

『家族は認知機能の低下を感じているが、本人に抵抗があり受診につながらないケース』

夫や娘達が物忘れの症状が気になり、脳の検査をしてもらおうと働きかけても、「自分はどこも悪い所がない。何かするくらいなら死んだほうがましだ。」と頑なに拒否する。受診をす

るためにはどのように対応したらよいかを、認知症初期集中支援チームで検討し、市民健診の結果から、受診につないでいく方針が決まった。

まずは、訪問や家族への聞き取りを丁寧に行い、本人が受け入れやすい公立病院の人間ドックということで受診につなぐことができた。検査結果で、小さい脳梗塞が見つかり左脳の血流が悪く、認知症は初期の段階との診断が出た。受診までの過程で、支援チーム会議での提案内容を、夫や長女、医師や病院スタッフ等と綿密に共有し連携できたことで、各検査をスムーズに受けることができ、受診と内服も継続している。内服により本人の症状も緩和し、家族と穏やかに過ごしている。

【課題】

認知症の相談は増えているが、専門医の確定診断より早急なサービス利用の希望が多くなっているため、早期発見・早期対応に努める必要がある。

【認知症相談延件数】

(単位：件)

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
432	130	156	93	811

【認知症サポーター養成講座開催回数】

(単位：回)

豊岡	城崎・竹野	日高	出石・但東	合計
5	4	2	3	14

【認知症初期集中支援対応件数】

(単位：件)

	前年度からの継続	新規	終了	4月以降継続
2020年度	3	10	5	8
2021年度	8	9	8	9
2022年度	9	6	11	4

※認知症初期集中支援チーム…認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる。医療や介護サービス等につなげていけるような集中的な支援を行い、認知症の方やご家族を支える。

資料3

2022年度地域包括支援センター事業等収支決算集計表

(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	83,095,020	76,659,968	6,435,052
城崎・竹野地域包括支援センター	35,684,840	32,648,438	3,036,402
日高地域包括支援センター	40,208,700	34,996,264	5,212,436
出石・但東地域包括支援センター	41,612,160	37,896,834	3,715,326
全地域包括支援センター合計	200,600,720	182,201,504	18,399,216

2023年度 豊岡市地域包括支援センター事業計画

【地域包括支援センター活動目標】

豊岡市老人福祉計画・第8期介護保険事業計画の基本理念「みんなで支え合い 笑顔あふれる まちづくり」の実現に向けて、高齢者が可能なかぎり住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくことができるよう地域課題を把握し、市や地域住民、関係機関との連携・協働により、地域共生社会（「高齢」「障害」といった縦割り型福祉ではなく、生活上の困りごとを抱えた人を地域で幅広く支えることができるような包括的支援）を見据えた地域包括ケアシステム構築の推進に向け取り組む。

1 総合相談支援業務

方針(1) 高齢者のさまざまな相談を受け止め、心身の状況や家庭環境等の適切な実態把握を行い緊急性を判断し優先順位をつけ対応する。

ア 相談対応の中で、必要に応じ適切なサービスや多様な社会資源につなぎ、総合相談支援対応の終結を意識し対応する。

方針(2) 支援を必要とする高齢者の把握及び継続的な支援を行うため、地域における様々な関係者とのネットワーク構築を行う。

ア 地域住民、ボランティア、介護サービス事業者、生活支援コーディネーター、各企業や団体等と連携を図り、支援の必要な人が地域の中で支えられているネットワークの確認や新たなネットワークづくりに取り組む。

2 権利擁護業務

方針(1) 豊岡市高齢者虐待対応マニュアルに沿い、関係機関と協同して適切な対応を行う。

ア 事例検討を行い、適切な対応ができるよう力をつける。

方針(2) 必要な人が成年後見制度の利用ができるよう支援する。

ア 必要な人に成年後見制度の利用が繋がっているかを調査・分析し、課題を明らかにする。

方針(3) 関係機関と連携し、高齢者の消費者被害の防止に努める。

ア 但馬消費生活センターや豊岡市消費生活センターと連携し、意見交換・情報交換を行い、高齢者の消費者被害の防止に努める。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

方針(1) 介護支援専門員が各関係機関と連携体制を構築できるよう支援する。

ア 介護支援専門員連絡会や各圏域の会議で関係機関と情報共有や意見交換を行う機会を持つ。

イ 医療介護連携をスムーズに行うために医療関係者とお互いを理解するための機会を持つ。

方針(2) 介護支援専門員の質の向上を図る。

ア 認知症についての理解を深められるよう支援する。

イ 社会資源情報を把握し、活用できるようにICTの利用を進める。

方針(3) 介護支援専門員が地域の把握や地域とつながる視点を持てるよう支援する。

ア 業務継続に向けた取り組みの強化・感染症対策の強化についての研修の機会を持ち、必要な知識を身につけられるように支援する。

4 地域ケア会議の推進

方針(1) 個別ケア会議を開催し、ケースの情報共有と課題解決を図る。

ア 個別ケア会議において課題整理を行い、多職種で情報共有、役割分担し、各々の役割を認識して課題解決に向けて検討する。

方針(2) 自立支援型ケア会議を通じて、本人の望む生活の実現と介護支援専門員の資質向上を図ると共に、個別の事例検討から地域課題を抽出し整理する。

ア 圏域毎に自立支援型ケア会議を開催し、多職種で個別の事例検討からみえる地域課題を共有・整理し、地域ケア推進会議での検討・協議に繋げる。

5 介護予防ケアマネジメント業務

方針(1) 自立した生活のための能力維持と向上を図り在宅生活を支える。

ア 介護予防について広報紙による啓発活動、地域の集まりの場で啓発活動をすすめる。

イ 高齢者の自立支援につながるよう公的サービス以外のサービス・活動等、住民主体の支援などの活用も視野に入れ、多職種との連携を強化する。

ウ 高齢者が、自立した生活を継続できるよう介護予防の場につなげる。

方針(2) 要支援者及び事業対象者が、介護予防・生活支援サービスを適切に受けられるようケアプランの作成を行い、介護予防・重度

化防止につながるように取り組む。

- ア 具体的な目標と期間を設定し、生活状態の改善状況、サービスの効果等を評価し、サービスの終了も含めた見直し又は継続を検討する。
- イ 高齢者の意向を確認しスムーズに支援に繋がれるように、適正に居宅介護支援事業所に再委託を行う。

6 生活支援体制整備の推進

- 方針(1) 生活支援コーディネーター等と連携し、地域における課題解決のネットワークの構築に努める。
 - ア 高齢者やその家族を支える地域の多様な社会資源を把握する。
 - イ 生活支援コーディネーター等と連携し、話し合いの場に参加し、地域における課題の解決に向けた取り組みを進める。

7 認知症施策の推進

- 方針(1) 認知症についての知識を普及啓発し、正しい理解を深める。
 - ア 小中学生や高校生を含む幅広い世代や企業等を対象に認知症サポーター養成講座や認知症講座を開催し、対象者に認知症をわかりやすく伝え理解を深めることで、地域で認知症の方を受け止め、見守り・支え合う地域づくりに取り組む。
- 方針(2) 認知症の早期発見・早期対応に努める。
 - ア 認知症初期集中支援推進事業の周知を、居宅介護支援事業所や民生委員等に行い早期発見につなげる。
 - イ 「認知症相談センター」として、早期に適切な医療・介護・社会資源につなげる。「豊岡市認知症ケアパス」を活用し、予測される症状に応じた適切な対応、サービスについての説明を行う。また、相談内容に応じて認知症地域推進委員や認知症初期集中支援チームにつなぎ、連携して早期対応・早期診断に向けた支援を行う。

資料 5**2023年度地域包括支援センター事業等収支予算集計表**

(単位:円)

	収入	支出	収支差額
豊岡地域包括支援センター	81,771,000	81,771,000	0
城崎・竹野地域包括支援センター	36,140,000	36,140,000	0
日高地域包括支援センター	43,305,000	43,305,000	0
出石・但東地域包括支援センター	40,829,000	40,829,000	0
全地域包括支援センター合計	202,045,000	202,045,000	0